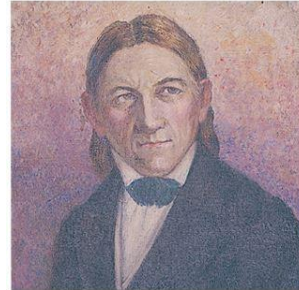


大野で見つけた神様からの贈り物 ^{おん ぶつ} 明治時代の恩物（教育遊具）



「幼児教育の父・フレーベル」



フリードリヒ・W・フレーベル
(ドイツ、1782～1852)



フレーベルは、世界最初に幼稚園を開き、そして教育遊具の「^{おんぶつ}恩物」を作り出すなど、幼児教育の発展に大きな役割を果たしました。こうした偉大な業績によってフレーベルは「^{いだい ぎょうせき}幼児教育の父」と呼ばれています。フレーベルが1839年に開設した「幼児、児童のための作業教育所」は、後に「キンダーガルテン」と名付けられて、現在は、「国立ハイデクスブルグ博物館分館」となっています。

恩物は、1838年に考案され、第一～第十恩物を通して、子どもたちが楽しく学びながら、創造的な表現活動ができるように考案されました。6色の球体で構成される第一恩物から丸い粒で構成される第十恩物まで、それぞれはすべてシンプルな形、素材を使ってできています。

教育博物館には、大野市の旭幼稚園で子どもたちが大切に使用していた「恩物」が保管・展示されています。

